



キッズルーム付きでお母さんもリフレッシュの美容室

近くのビル2階に2号店としてオープンさせた。

開店のリサーチ中、駅周辺で小さな子を連れた母親をよく見かけたが、子育てに追われおしゃれをする時間がとれない人が多いことに気づき、キッズルームを設けることにした。

当初はサロン内のコーナーで保育をしていたが、泣き出す子もいてお母さんがリラックスできない、他の客への配慮が必要などの理由で1階の空き部屋を借りて専用室を設けた。約7㎡のキッズルームにはテレビ、絵本、おもちゃが置かれ、子育て経験豊かな専任スタッフが保育をしている。マンツーマンが原則だが、兄弟姉妹も状況に応じて預

かる。顧客サービスの一環で費用は無料だが、オムツなどの着替えとおやつは利用者の持参。開設は週3日で、前日までに予約が必要だ。

子どものころからヘアメイクに興味を持っていた柏村さんは、美容の世界にとび込んで技術とセンスをみがき、31歳で喜多見



保育室

駅近くの商店街に店を持った。現在は千歳船橋店も含め3店を経営している。

「美容の仕事は髪の一部を持ちあげた瞬間から次々と形が変化、一瞬が勝負の仕事」と話す柏村さんは、教育にも熱心。同店には新後伸子店長以下14人、喜多見店にも6人のスタッフがいますが、週2回、閉店後に技術研修を行い、昇任システムを設けるなど、技術の向上に取り組んでいるのも特色だ。

c'est la vie 狛江店

DATA▶ セラヴィー ☎3488-9881 狛江市元和泉1-1-2 エコルマ2 営業=午前10時~午後8時 火曜・第3水曜休み キッズルーム=月・水・金のみ



子育て中のお母さんもたまにはリフレッシュを——「c'est la vie(セラヴィー)」狛江店は専用の「キッズルーム」があり、乳幼児を持つお母さんに喜ばれている。

「客のニーズにこたえられる確かな技術と地域密着」をモットーに岩戸北で同名の美容サロンを営む美容師・柏村信雄さん(47)が平成11年に狛江駅

あの店...この一品

この欄で紹介したい特徴ある品物やお店がありましたら産業生活課へお知らせください

災害時の支援やAED 岩戸町会に企業が協力

岩戸南2丁目の岩戸地域センターに昨年12月、「自動体外式除細動器(AED)」が設置された。市の施設では市役所、市民総合体育館、あいとぴあセンターに置かれており、同センターが4カ所目。

岩戸北3丁目の千代田第一工業(株)が狛江市に寄贈したものの。

金属処理加工を専門とする同社は「地域貢献」「公害を出さない」などを経営方針に掲げており、鈴木達夫会長が狛江消防署のアドバイスを受けて、11月30日に地元の岩戸町会(根村利生会長、約4000世帯)と災害時相互応援協定を締結した。

狛江消防署(塩澤勉署長)によると、これまでに東京多摩病院、特別養護老人ホーム「こまえ苑」、同「こまえ正吉苑」

慈恵第三病院の4施設と、それぞれの近くの町会や自治会、企業が結んでいるが、一般企業が町会と防災ネットワークを結ぶのは同管内では初めて。

協定では、火事や大地震の時に、千代田第一工業が町会の人に同社の敷地を被災者の救護所として開放して救護処置を行うほか、敷地内の3カ所に設けた防災資材倉庫の消火器や非常食などを無償提供することになっている。

今回の寄贈は、協定内容を実現する具体的な活動の一環で、地域の人々が利用できるよう社内にもAEDを設置し、協力関係を強める。

根村会長は「町会は共生が合い言葉。町会内の病院や企



防災協力消火器を見る根村会長(右)と塩澤署長(中央)

業など約100団体も特別会員になっている。しかし、企業の側から積極的に関わってもらうのは初めてで、すごく心強いし、ありがたい」と喜んでいる。

AEDとは=心臓の心室が小刻みに震える「細動」の状態になり、全身に血液を送れなくなる致死性の不整脈に陥った時に、電気ショックによって救命処置を施す器械。平成16年から一般市民の使用が認められ、公共施設などへの設置が進められている。

ヤツガシラ

子孫繁栄を願う縁起物として、おせち料理によく使われるサトイモの一種。

サトイモは熱帯アジア原産で、日本には稲より早く入ってきたといわれる。タネイモを畑に植えて栽培し、種類により形や茎の色、地下茎のどの部分を食えるかが異なる。他のイモに比べカロリーが低く食物繊維が多いため、ダイエット食品として注目されている。

ヤツガシラは茎が赤い赤芋系で、親芋と子芋が分かれずゴツゴツしたコブがい

くつもくつき、直径10~20cmの扁平な塊になる。一般的なサトイモに比べ値段はやや高め

だが、肉質が堅めで甘味が強いのが特徴で、正月の煮しめなどに使われる。

市内では自家用に栽培する農家が多いが、暮れから新年にかけてマインズショップ狛江店にも出荷される。

駒井町の高橋晟さんは主に新年用として栽培、ことは4月にタネイモを植えて育て、約100個を年末に収穫して販売している。

ヤツガシラや京イモなどのサトイモを主に生産している東野川の栗山喜作さんは、代々受け継いできたタネイモを3月中旬に植え、霜が降りる前に収穫。



稲より長いつきあいの正月の縁起物

非常に珍しい3葉のマツ



クロマツとはまったく違い、一見街路樹のプラタナスのようで、青白色または緑白色になって鱗片状にはがれる。葉は3葉でアジアでも珍しいという。

シロマツ



日本でも数が少ない「シロマツ」という木が西河原公園にある。噴水の西側の運動施設横にあるこの珍しい木は高さ10mほど。樹皮はアカマツ、正時代に庭木として植えられたが、いまは地方の植物園や公園に残っている程度。市内では文京区の東大理学部付属の小石川植物園で見られるが、以前、高尾の森林科学園にあった木は数年前に枯れてしまったという。中国では寺院などに植えられ、神聖な樹木として大切に扱われている。この

(マツ科)

種類では、葉の長さが30cmにもなる3葉の大王松が庭などに見られるが、これは北米東海岸原産である。

狛江市のシロマツは、22年ほど前、仕事で来日し近くに住んでいた中国人が残していったものである。その人は、祖国をしのぶよすがとして実を持参、芽を出したので鉢植えにして育てていたが、帰国に際して処置に困っていた。その話を聞いた市民が、当時高さ3mぐらいたった木を福祉会館(現、西河原公民館)の駐車場跡地に移植した。その後、都の緑の推進委員の手で2~3回移植が行われ、現在の場所に落ち着いた。(狛江植物同好会・倉持通夫)

しぜんの歳時記